

平成 28 年 度

「教育委員会の点検・評価」 報告書

(平成 27 年度対象)

平成28年11月

壬生町教育委員会

目 次

I 教育委員会評価の概要	P 1
II 教育委員会の活動	P 3
III 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性	P 4
1. 潤いに満ちた生涯学習を振興する	
(1) 多様な学習活動の支援	
① 学習内容の充実（生涯学習課）	P 4
② 施設の整備・充実（生涯学習課）	P 5
③ 図書館サービスの充実（生涯学習課）	P 9
(2) 学習成果の地域社会への活用	
① 成果活用機会の充実（生涯学習課）	P 11
2. 歴史・伝統を学び、新たな文化を創造する	
(1) 文化遺産の保護・活用	
① 文化財の保護（生涯学習課）	P 12
(2) 地域伝統・歴史の再興・継承	
① 地域文化の継承（生涯学習課）	P 14
(3) 地域の歴史の再発見・発信	
① 地域歴史・文化の調査研究（生涯学習課）	P 14
3. 自ら学びたくましく生きる力を育む学校教育を推進する	
(1) 小・中学校教育の充実	
① 教育内容の充実（学校教育課）	P 15
② 特別支援教育の充実（学校教育課）	P 17
③ 教育環境の整備・充実（学校教育課）	P 18
④ 相談体制の充実（学校教育課）	P 21
⑤ 幅広い学びの充実（学校教育課）	P 21
(2) すべての住民が競い、触れあい、スポーツを楽しむ環境を創る	
(1) 生涯スポーツの普及促進	
① 人材・団体の育成（スポーツ振興課）	P 23
② 地域型スポーツの推進（スポーツ振興課）	P 25
③ スポーツ施設の充実（スポーツ振興課）	P 26
(2) 幅広い町民スポーツの振興	
① スポーツ参加機会の拡大（スポーツ振興課）	P 27
4. 青少年が健やかに育つ社会を実現する	
(1) 家庭教育の推進	
① 家庭教育の充実（生涯学習課）	P 28
(2) 青少年活動の推進	
① 青少年活動の充実（生涯学習課）	P 29
6. 共同参画社会の確立を目指し、個人・個性を尊重する	
(1) 男女共同参画の推進	
① 推進体制の整備（生涯学習課）	P 30
7. 国際理解を促進し、交流活動を推進する	
(1) 国際理解の促進	
① 外国文化への理解の促進（学校教育課）	P 31
(2) 国際交流活動の推進	
① 交流活動の支援（学校教育課）	P 32

I 教育委員会評価の概要

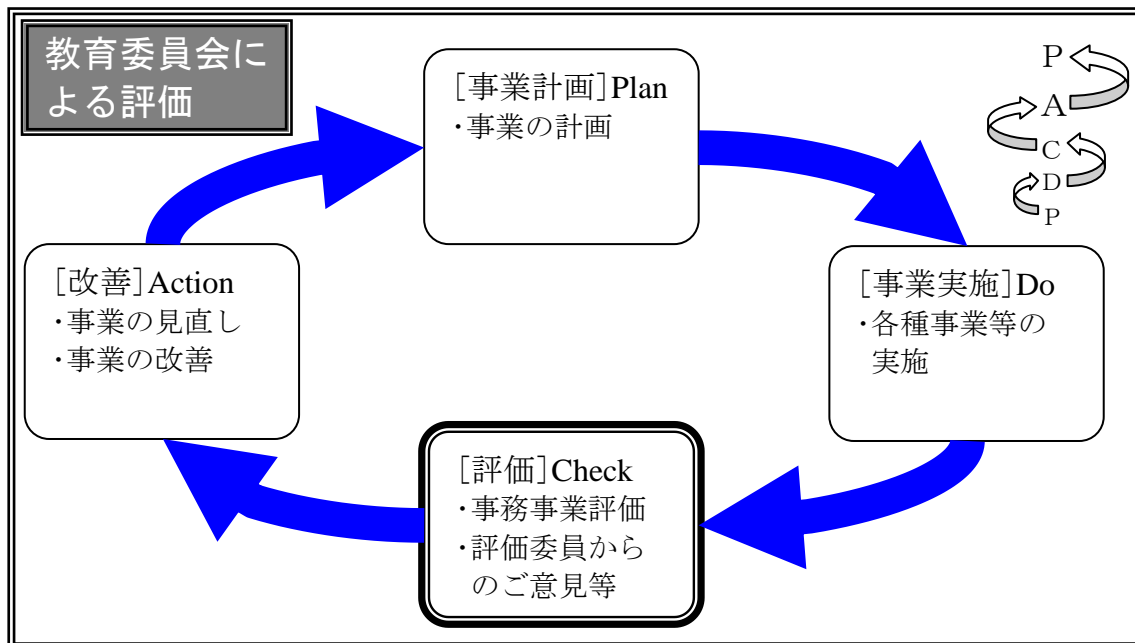
1 評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民へ公表するため、壬生町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施します。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○評価のしくみ

教育委員会で行った自己評価と今後の対応方向を明示して、外部の方のご意見をいただきます。



2 評価の対象

平成18年度から平成27年度の町政運営の基本的方向を示した壬生町第5次総合振興計画～活力と創意が生きる 希望に満ちたまち みぶ～に基づき、7基本方針、13基本計画に分け、必要性・妥当性・効率性・有効性等の観点から主な施策の主要事業について、平成27年度の事業を点検し、評価を行いました。施策名称等は、次のとおりです。

3 施策の名称等

基本姿勢

個性が輝き文化が薫る、学びの社会を実現する

基本方針	基本計画	主な施策
1. 潤いに満ちた生涯学習を振興する	(1)多様な学習活動の支援	①学習内容の充実 ②施設の整備・充実 ③図書館サービスの充実
	(2)学習成果の地域社会への活用	①成果活用機会の充実
2. 歴史・伝統を学び、新たな文化を創造する	(1)文化遺産の保護・活用	①文化財の保護
	(2)地域伝統・歴史の再興・継承	①地域文化の継承
	(3)地域の歴史の再発見・発信	①地域歴史・文化の調査研究
3. 自ら学びたくましく生きる力を育む学校教育を推進する	(1)小・中学校教育の充実	①教育内容の充実
		②特別支援教育の充実
		③教育環境の整備・充実
		④相談体制の充実
		⑤幅広い学びの充実
4. すべての住民が競い、触れあい、スポーツを楽しむ環境を創る	(1)生涯スポーツの普及促進	①人材・団体の育成
		②地域型スポーツの推進
		③スポーツ施設の充実
	(2)幅広い町民スポーツの振興	①スポーツ参加機会の拡大
5. 青少年が健やかに育つ社会を実現する	(1)家庭教育の推進	①家庭教育の充実
	(2)青少年活動の推進	①青少年活動の充実
6. 共同参画社会の確立を目指し、個人・個性を尊重する	(1)男女共同参画の推進	①推進体制の整備
7. 国際理解を促進し、交流活動を推進する	(1)国際理解の促進	①外国文化への理解の促進
	(2)国際交流活動の推進	①交流活動の支援

Ⅱ 教育委員会の活動

壬生町教育委員

職 名	氏 名	任 期
教育長	田 村 幸 一	H27. 4. 2～H30. 4. 1
委 員	池 節 子	H26. 10. 1～H30. 9. 30
委 員	藍 田 收	H25. 12. 23～H29. 12. 22
委 員	大久保 信 男	H28. 1. 22～H32. 1. 21
委 員	本 島 博 久	H24. 11. 1～H28. 10. 31

1. 教育委員会の活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

		平成26年度	平成27年度
開催回数	定例会	12	12
	臨時会	2	1
計		14	13
付議案件数	審 議	50	36
	報 告	41	45
計		91	81

(2) 平成27年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件 数
教育に関する一般方針について	6
教育財産の取得について	0
人事案件について	12
規則等の制定・改廃について	11
教育委員会の点検・評価について	1
その他	6
合 計	36

2. 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 学校その他の教育施設等の視察

実 施 日	視 察 先
平成27年 6月17日	壬生東小学校・睦小学校
平成27年 6月24日	壬生小学校・壬生中学校・南犬飼中学校
平成27年 7月 6日	安塚小学校・壬生北小学校・羽生田小学校
平成27年10月14日	藤井小学校・稲葉小学校

(2) 教育委員の総会・研修会など

平成27年 5月29日 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会
 平成27年 7月 9日～10日 下都賀地区市町教育委員会連合会学事視察
 平成27年 7月31日 下都賀地区市町教育委員会連合会教育委員全体研修会
 平成27年11月11日 栃木県市町村教育委員会委員研修会

(3) 教育懇談会

平成27年11月26日 町PTA会長との懇談会

Ⅲ 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性

1. 潤いに満ちた生涯学習を振興する

(1)多様な学習活動の支援

各社会教育施設の適切な維持管理及び運営に努めるとともに、魅力ある学習事業の企画やイベント・鑑賞会などの開催、後援及び自主学習団体などの活動促進を図ります。

また、図書資料の充実とともに、町内の教育機関及び他市町施設との連携強化、インターネットの効果的な活用など、利用環境の整備を推進します。

①学習内容の充実

●主要事業

◇各種講座等開催事業（壬生中央公民館 971,440 円・稲葉地区公民館 316,242 円・南犬飼地区公民館 517,215 円）

<事業概要及び実施状況>

壬生中央公民館では、「印をつくろう（篆刻入門）」「国語に触れる」「エコクラフト初めてみませんか」「開花学級」等 10 講座、また、夏休みの子ども向け講座として「子ども合唱講座」「親子考古学体験教室」の 2 講座、並びに、「昆虫展」を開催いたしました。

稲葉地区公民館では、「ヨガ教室」「さくら学級」「ビーズアクセサリ教室」「こどもチャレンジ パンケーキ」等 8 講座を実施いたしました。

南犬飼地区公民館では、「初めての太極拳」「女性セミナー」「着付け教室」「Do It Yourself」等 11 講座を実施いたしました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 26 年度	平成 27 年度
講座開催回数	教室、講座延べ開催回数	講座	201	226
講座受講者数	参加延べ人数	人	3,448	3,322

<評価と課題・改善>

各公民館は、学習機会(生涯学習)提供の場として、町民等が求める講座等を開催し、地域のコミュニケーションづくりのうえで大きな役割を果たしています。

各公民館ごとに地域に合わせた教室等を開催しておりますが、予算の関係で開催数は大きくは増えません。また、参加延べ人数につきましても、参加する町民の興味のある教室ばかりではないため、横ばい状態です。町民のニーズのある講座等の開催を図っていきます。

また年に一度、日頃の成果を発表する公民館まつりは、各団体による実行委員会により運営され、ステージ部門 24 団体、展示部門 21 団体、その他 4 団体が参加・出演し、多くの町民が参加しました。今後も 1 年間の発表の場として、多くの人々が参加して楽しめるよう図っていきます。

<今後の方向性>

互いに町民が学びあい、子どもから高齢者を含む幅広い世代の地域住民に合った講座等を開催していきます。また、公民館講座等から自主的な学習へと移行するよう継続的な支援を図っていきます。

◇各種講座等開催事業(生涯学習館 1,716,496 円)

<事業概要及び実施状況>

生涯学習館では、主催講座として一般向けには「季節の野鳥を観察しよう(春・秋・冬)」「ノルディックウォーキング」「季節の手作り」「手作りソーページ教室」など実用の8講座と幼児の親子を対象とした「リトミック」講座を実施しました。IT講習として「はじめてのパソコンからインターネットまで」「はじめてのワード文書作成」「ワード&エクセル ステップアップ講座」など、パソコン初心者向けの7講座を実施しました。

また、町民による団体に委託して実施している「子育て支援事業」には327組の親子、「生涯学習セミナー企画事業」には延べ182人が参加しました。

なお、町行事と重なり開催日を変更した「生涯学習館フェスティバル」(生涯学習館を中心に活動している自主団体の成果発表の場)は、再び町主催の「壬生町総合防災訓練」と重なりましたが、変更が難しく予定どおり実施することになりました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
講座開催回数	講座延べ開催回数	回	154	125
講座受講者数	参加延べ人数	人	876	988

<評価と課題・改善>

事業費をみると、27年度は対前年比8%の削減、講座開催回数も8%の減です。反面、講座受講者数は、10%の増となっており、町民ニーズに多少は対応できたと考えられます。事業費の圧縮は、ここ数年継続しており、27年度は22年度の半分の決算額です。限られた事業費の中ですが、町民の自主的な学習への継続的な支援は不可欠です。町民の多様な興味やニーズを踏まえ、時代を見据えた内容の講座とすることが必要です。

<今後の方向性>

町民向けの学習講座は、生涯学習関係の施設に限らず、福祉関係の施設などでも実施されています。その中で、本館で実施しているIT講習は、町内のどこの施設でも実施されておられません。このような生涯学習館として独自性のある、町民にとっても魅力的な講座を実施し、町民の学習意欲や施設の利用向上を図ってまいります。

<評価委員の意見>

・今後も、引き続き適切な事業の実施を望みます。

②施設の整備・充実

●主要事業

◇中央公民館改修等工事(28,986,120円)

<事業概要及び実施状況>

中央公民館の愛称である「城址公園ホール」を町民に浸透すべく、中央公民館の銘板を「城址公園ホール」に交換いたしました。

平成27年度は特に館内でのいたずら等が目立ったため、これらを防止すべく、防犯カメラ及び警報機器を設置いたしました。

大ホールのステージは建築以来約 30 年を経過し床板の傷みが激しいため、床板の張替を行いました。

公民館・図書館・資料館の空調設備は灯油で動いており、地下貯蔵タンクに貯蔵されておりますが、危険物の規制に関する規則等の一部改正により、タンクの改修が必要になったため、地下貯蔵タンク改修工事（タンク内のライニング工事）を実施しました。

中央公民館は、建築後約 30 年を経過しているため、施設内のバリアフリー化を進めるべく、トイレの洋式化及び段差の解消のための改修工事を実施いたしました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 26 年度	平成 27 年度
利用者数	中央公民館延べ利用者数	人	73,417	70,136

<評価と課題・改善>

中央公民館の銘板を交換したことにより公共施設としての重要性が再認識され、また、広報紙等に掲載する際、「城址公園ホール」を前面に出して、浸透を図っており、今後も進めていきます。

防犯カメラ及び警報機器を設置するとともに、管内の見回り等も増やすなど、より注意をしており、目立ついたずら等はない状況になりましたが、今後も引き続き注意していきます。

大ホールのステージ床を改修したことにより、利用者も気持ちよく利用しています。

地下貯蔵タンクを改修し、危険物の規制に関する規則に適合したことにより、安全に空調設備を使用することができます。

中央公民館は、一部トイレの洋式化はされておりましたが、バリアフリー化改修工事により、和式トイレを一部残して洋式化し、暖房温水洗浄便座を設置しました。また、トイレ内の小さな段差を解消すべくスロープ化を図り、さらに大ホール左側の廊下はホールへの入口が階段のため、段差解消すべくスロープ化をいたしました。これにより、利用者（高齢者等）が利用し易くなりました。

今後、大ホール舞台機構電気設備等改修工事の残り工事（3期分）や他の改修工事につきましても順次更新を図って行きます。

<今後の方向性>

大・中ホールの舞台照明機構設備や他施設の改修につきましても、利用環境の向上を目指して、計画的な更新・改修を行い、利用者が安全で快適に利用できるよう利便性の向上を図ります。

<評価委員の意見>

- ・コンピューターシステムの導入等により、空き状況の確認がしやすくなれば、公民館が借りやすくなり、利用率の向上にも繋がると思いますので、システム導入の検討をお願いしたい。
- ・避難所としての機能もあることから、総合的見地から他部署と連携を進めていただきたい。
- ・避難所としては、避難所カードの配布・集計等で正確な人数の把握に努めていただきたい。

◇稲葉地区公民館改修等工事（3,242,120円）

＜事業概要及び実施状況＞

稲葉地区公民館2階調理室の空調機が壊れたため、空調機を交換いたしました。

稲葉地区公民館は高齢者の利用が多く、また、利用者からの要望が多いため、1階トイレを洋式（暖房温水洗浄便座）に改修しました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
利用者数	稲葉地区公民館延べ利用者数	人	4,888	5,643

＜評価と課題・改善＞

2階調理室の空調機を交換し、季節により空調機が必要な場合があるため、利用者の利便性の向上を図りました。

稲葉地区公民館は、一部トイレの洋式化はされていますが、さらに洋式化を進め、暖房温水洗浄便座を設置し、利用者（高齢者等）が利用し易くなりました。

＜今後の方向性＞

稲葉地区公民館の利用環境の向上を目指して、適時に修繕・改修等を行い、町民が安全で快適に利用できるよう利便性の向上を図ります。

＜評価委員の意見＞

・今後も、引き続き適切な時期に修繕等の実施を望みます。

◇南犬飼地区公民館改修等工事（4,050,000円）

＜事業概要及び実施状況＞

南犬飼地区公民館分館の「まちかど文庫」は、ロビーに開設したことにより、読者には照度不足のため、照明を改修しました。

また、南犬飼地区公民館の電気設備（高圧区分開閉器、トランス等）は設置後20年以上を経過しており、機器交換の指摘を受け施設の安全を図るため、電気設備の改修を実施いたしました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
利用者数	南犬飼地区公民館延べ利用者数	人	17,516	16,796
まちかど文庫利用者数	入館者数	人	2,147	1,652
まちかど文庫利用者数	貸出者数	人	811	1,072
まちかど文庫利用者数	貸出冊数	人	1,943	2,820

<評価と課題・改善>

南犬飼地区公民館の電気設備改修工事により、設備の安全の確保を図り、利用者が快適・安全に利用できるようになりました。

「まちかど文庫」のロビー照明を改修することにより、読書環境を整備しました。「まちかど文庫」は、主に中学校までの児童・生徒を対象とし、地域の小さな図書館的役割をはたすべく開設し、利用者の利便性向上を図っていきます。

<今後の方向性>

南犬飼地区公民館・分館の利用環境の向上を目指して、適時に修繕・改修等を行い、町民が安全で快適に利用できるよう利便性の向上を図ります。

まちかど文庫は開設して2年程度と年数が浅いため、より周知を図り利用向上を目指しPRに努めます。

<評価委員の意見>

- ・まちかど文庫については、安塚地区の潜在的ニーズが高いため、小さな図書館としてのまちかど文庫の活用と、町立図書館との連携を進めていただきたい。

◇ふれあい広場改修等工事(4,091,040円)

<事業概要及び実施状況>

ボイラー等の老朽化のため、浴室に供給される温水が給水開始後、しばらくの間、赤茶けた温水が供給される状態でした。

そのため、平成27年度にボイラーの交換、給水管の更新等の「ボイラー等改修工事」を実施し、快適な状態で入浴ができるようにしました。

また、テレビのブースター電源の増設工事や研修室のLED照明器具増設工事を実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
利用者数	ふれあい広場延べ利用者数	人	9,584	12,376

<評価と課題>

施設の老朽化に伴い、利用者にご不便をおかけしているところもありますが、改修工事の実施により、利用者の利便性の向上や快適性の向上を図っております。

改修工事の実施に際しては、一時的ではありますが、施設の利用を制限し利用者にご不便をおかけすることが課題です。

<今後の方向性>

今後も修繕、改修工事が必要になっていきますが、優先順位を付け計画的な整備に努め、利用制限の期間をできるだけ、短期間で実施するよう努めていきます。

<評価委員の意見>

- ・今後も、引き続き適切な時期に修繕等の実施を望みます。

◇自治公民館建設事業(0円)

＜事業概要及び実施状況＞

自治会公民館は、自治会活動及び円滑な地域交流の拠点として重要なものがあります。地域の方々が主体的に活動する自治会公民館の利便性を図るため、新築、増改築及び修繕等を行う場合の費用の一部を補助しています。

平成27年度については、自治会からの補助金申請はありませんでした。

補助率、補助金額等は以下のとおりです。

- ①新築の場合 補助率 30%上限 300万円
- ②増改築の場合 補助率 30%上限 200万円
- ③修繕(設備整備を含む) 補助率 50%上限 200万円、ただし 20万円以上の事業費が対象
- ④コミュニティーセンター事業の場合 対象経費の5分の3以内 上限 1,500万円

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
自治会公民館建設数	新築補助件数	件	1	0
自治会公民館改修数	改修等補助件数	件	2	0

＜評価と課題＞

自治会公民館の建設、改修等の補助金は年度当初に行政協力員(自治会長)の会議で毎年周知しています。

自治会公民館は、老朽化しているところが多いので、修繕または、新築等は、今後、増加することが予想されます。

＜今後の方向性＞

行政協力員(自治会長)の会議等で、自治会公民館の整備等補助金の周知に努めます。また、中期的な公民館整備の意向を確認しつつ、自治会活動及び円滑な地域交流の拠点整備を支援して参ります。

＜評価委員の意見＞

- ・自治会活動が自治会員の高齢化に伴い、先細りしていく傾向があり、このままでは地域が崩壊していくことになるかもしれない。教育委員会の所管事項ではないかもしれないが、何か、対策をとらなくてはならないと思うので他部署への働きかけや連携を望みます。

③図書館サービスの充実

壬生町立図書館は、平成27年4月1日から指定管理制度を導入しました。図書館の管理運営は、「株式会社 図書館流通センター」が行い、開館時間の延長や祝日の開館等を行い、利用者の利便性の向上に努めております。開館日数については、平成26年度の281日から平成27年度には、317日に36日間の増加がありました。また、開館時間を延長し、午前9時から午後7時までとし利便性の向上を図っています。図書館まつりや工作教室等の独自の図書館事業を実施し、親しみやすい図書館運営を行っております。

●主要事業

◇図書等購入事業（5,895,165円）

＜事業概要及び実施状況＞

図書や雑誌等の活字資料、DVDやCD等の視聴覚資料など、町民の学習や娯楽、日常生活の課題解決に供する資料を収集、整理し、町民共有の財産として保存していくことが図書館の役割です。

[貸出件数]

	一般書	児童書	郷土資料	参考資料	城	漫画	雑誌	CD	DVD	ビデオ	その他
H26	62,614	87,613	89	54	167	8,516	6,267	6,496	6,983	816	0
H27	70,738	93,596	171	123	136	11,403	6,168	8,364	6,836	772	0

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
年間購入資料点数	1年間の購入資料の点数	点	4,294	3,747
年間館外貸出点数	1年間の貸出の点数	点	179,624	198,307

＜評価と課題＞

図書購入予算については、指定管理料に含まず、町が別途、一般会計に計上し、平成27年度も平成26年度と同額の予算を確保しました。限られた予算の中で、今後とも、町民が利用したくなる図書等の充実のため、効果的な図書の購入に努めていきます。

＜今後の方向性＞

図書館の指定管理者制度導入により、開館日数や開館時間が増えるなどサービスの質の向上が図られています。また、図書等購入事業については、指定管理者制度を導入後も、町教育委員会が購入する図書の選定に関与し、公平性や公共性の確保に努め、町民の利用動向を踏まえながら魅力ある図書等の収集に努めてまいります。

◇移動図書館運営事業

＜事業概要及び実施状況＞

図書館から遠い地域の町民に対して実施する「全域サービス」の中核を担う事業です。各小学校区に最低1カ所として町内9か所にサービスポイントを設け、毎月1回の巡回間隔で実施しています。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
個人貸出点数（年間）	1年間の個人貸出の点数	点	27,589	26,488
学校貸出点数（年間）	1年間の学校への貸出の点数	点	23,400	21,028

<評価と課題>

児童へのサービスを第一に考え、駐車ポイントは各小学校に設定しています。児童が本と親しむ環境の維持には成果が得られていると考えています。

<今後の方向性>

移動図書館車の老朽化により、使用ができなくなる可能性がありますので、今後は、代替サービスの検討をして参ります。

<評価委員の意見>

・移動図書館車の代替サービスの検討を願いたい。

(2)学習成果の地域社会への活用

施設利用者が、生涯学習事業や自主学習などで身につけた技量・成果を、学校・職場など地域社会における文化活動に還元できるように支援します。さらに、各種団体やサークルの結成や活動を支援し、心豊かなまちづくりを推進します。

①成果活用機会の充実

●主要事業

◇学校地域支援ボランティア推進事業（577,556円）

<事業概要及び実施状況>

本事業は、「学校の教育活動」における支援を目的とした「学校支援ボランティア推進事業」と、「地域社会での活動」における支援を目的とした「地域支援ボランティア推進事業」で構成されています。

「学校支援ボランティア推進事業」は、伝統芸能指導や読み聞かせ等の活動をする「ゲストティーチャー活動」、授業補助や校外学習の引率等の活動をする「学習アシスタント活動」、植木の剪定や校舎内修繕等の活動をする「施設メンテナー活動」、スクールガードなどの活動をする「環境サポーター活動」があり、ボランティアの活動に伴うケガ等を補償するためにボランティア保険に加入しています。

「地域支援ボランティア推進事業」は、土曜日の小学校体育館を会場に地域住民と子どもたちが一緒に活動する「子ども遊び学び塾」、中学生に勉強を教えたい地域住民と勉強を教えてもらいたい中学生とのつながりの場を創出する

「放課後学習サポート活動」、地域行事等において、中学生と地域住民が一体となったまちづくりを推進する「中学生の地域活動推進活動」があります。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
学校地域支援ボランティア登録者数	各小中学校及び生涯学習課への登録者延べ人数	人	514	508

<評価と課題>

学校支援ボランティア推進事業では、平成27年度も多くの地域住民が本事業に関わり、地域の教育力を学校教育活動の中に生かすことができました。

また、「スクールガード」については、今市事件から数年が経過し、見守りの重要性が薄れ、平成 27 年度のスクールガードの登録人数は、最も多かった平成 18 年度の 404 名から半数以下の 182 名に減少しました。事業の普及、啓発のために、行政協力員（自治会長）の会議において、学校地域支援ボランティア推進事業の説明を実施し、本事業の啓発に努めています。

「放課後学習サポート事業」において、参加した生徒とその保護者を対象にアンケート調査を初めて行ったところ、家庭環境に何らかの問題を抱えた生徒が参加している実態や、そういった生徒にとっては本事業が貴重な学習の時間となっていることなどが明らかになりました。

<今後の方向性>

地域支援ボランティア推進事業では、子どもたちを地域全体で育もうとする気運をより一層高めていくように事業の周知に努めていきます。

<評価委員の意見>

- ・「放課後学習サポート事業」に学生等を活用すると学生自身の知識の向上になり、壬生町の教育レベルの向上に繋がると思いますので、学生の参加の検討をお願いします。

2. 歴史・伝統を学び、新たな文化を創造する

(1)文化遺産の保護・活用

貴重な文化財の保護を図るため、町内に残る史跡や天然記念物などの調査・研究を行うとともに、資料などの整備を進めます。

また、町内の史跡や古墳等を周遊・散策できる文化財めぐりルートの整備や史跡公園の整備を推進します。

さらに、国指定古墳の公有化を進め、文化財の保護に努めます。

①文化財の保護

●主要事業

◇埋蔵文化財発掘調査事業（2,817,000 円）

<事業概要及び実施状況>

民間開発に伴い提出された 35 件の発掘届出にもとづき、17 件の立会い調査を行いました。町内に存する 5 基の国指定史跡古墳の保存活用計画書を策定するための発掘調査を昨年度に引き続き実施しました。本年度から車塚古墳に加え、牛塚古墳の発掘調査が始まりました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 26 年度	平成 27 年度
発掘届出の受理件数(民間)	遺跡の保護を把握する	件	30	35
国指定史跡の調査件数	調査を実施した古墳	件	1	2

<評価と課題>

平成 27 年度は、個人住宅建設の増加に伴い発掘届出件数が増えました。今後も赤土採取工事等は増加すると考えられます。遺跡の有無に関する問い合わせ件数も増えていることから、開発側に対する遺跡の周知は図られていると考えます。平成 25 年度「壬生古墳群調査整備委員会」を設置し、平成 26 年度からは、史跡車塚古墳の発掘調査を開始し、平成 27 年度から牛塚古墳の発掘調査も始まりました。

<今後の方向性>

遺跡の周知徹底を図るため、遺跡地図をホームページ等に掲載することも考えていく必要があります。

保存活用計画書の策定に伴う発掘調査は、壬生古墳群調査整備委員会の指導のもと慎重に進めていくことが望ましいと考えます。また茨城大学・東京学芸大学と合同で実施している発掘調査体制は、新たな「街づくり・人づくり」の点でも有効な事業と考えます。

◇文化財保護管理事業(3,592,000円)

<事業概要及び実施状況>

町内に存する国史跡 4 箇所、県史跡 1 箇所の等の除草を行い、史跡地の維持管理に努めています。また車塚古墳の枯損木の伐採事業を継続的に行い、史跡見学者の安全を図りました。栃木県からの補助を受け、町を代表する文化遺産である古墳を取り上げたシンポジウムを開催しました。また古墳を解説するボランティアの育成講座を始めました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 26 年度	平成 27 年度
指定文化財件数	国・県・町指定文化財の数	件	66	66
育成講座受講生	古墳ボランティア数	人	0	42

<評価と課題>

新たに指定される文化財はありませんでした。町指定文化財の保存・改修に関わる補助制度の導入が必要となってくると考えられます。古墳シンポジウムという特定分野の討論会であつたが、200 名を超える町民の方が参加していただき古墳に対する関心度の高さが伺えた。

<今後の方向性>

国の史跡地については、愛宕塚古墳・牛塚古墳・車塚古墳と適切な維持管理ができておりこの状態を継続することが望ましいと考えます。古墳解説ボランティアについては、平成 28 年度に正式な会として設立し、古墳の解説を行う計画です。

＜評価委員の意見＞

- ・現在、実施している埋蔵文化財を活用した体験学習は、重要と思いますので、引き続き実施していただきたい。
- ・発掘調査に協力していただいている大学生について、民泊を検討していただくと大学生の活用になると思います。

(2)地域伝統・歴史の再興・継承

地域に伝わる文化遺産の調査・研究を行うとともに、歴史民俗資料館において郷土の文化遺産の再興と伝承を行います。

①地域文化の継承

●主要事業

◇文化財保護管理事業・町指定無形民俗文化財等補助金(490,000円)

＜事業概要及び実施状況＞

町指定無形民俗文化財保存会14団体への補助を行い、貴重な文化遺産の伝承に努めました。平成27年度は福和田五段囃子保存会にご協力をいただき、無形民俗文化財の公開事業を行ないました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
保存会数・15団体	補助金活用団体数	団体	14	14

＜評価と課題＞

無形民俗文化財保存会については、各流派を超えた技術の伝承を図ることが、お囃子等の伝承には不可欠と考え、各団体間の協力体制をつくるための連絡協議会を設置する計画で、平成28年4月の設立予定です。

＜今後の方向性＞

後継者が不足している団体については、後継者の育成に成功している団体から援助を受け、育成事業を活発化します。また地域間の枠を超え、流派を超えた団体の統合も考える必要はあると考えます。(仮称)連絡協議会を中心として、地元だけでなく、新たな発表の場を設けていく必要があります。

(3)地域の歴史の再発見・発信

地域の歴史について調査・研究を行い、その結果を企画展や講座などで発表し、住民が地域に愛着と誇りをもてるように啓発に努めます。

①地域歴史・文化の調査研究

●主要事業

◇企画展開催事業(3,097,618円)

＜事業概要及び実施状況＞

「郷土の偉人顕彰作業」を掲げ「人となりや業績」を題材とした企画展等の開催を通して、郷土文化の再認識と意識の高揚を図っています。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
企画展入館者	入館者延べ数	人	3,729	2,172
企画展講演会	聴講者	人	160	280

＜評価と課題・改善＞

27年度企画展「聡姫(あき)と壬生七傑」は、歴史上では注目されることが少ない、大名夫人の動向に焦点を当てることができました。なお、今回の展示会は「郷土の偉人顕彰作業実行委員会」を組織し開催いたしました。また、シンポジウムでは“聡姫の素顔”をテーマとして、聡姫の知識の深さと教養の高さに聴衆は魅了されました。

さらに、聡姫をサポートした旧臣の七人は、藩校〈学習館〉出身のエリートたちであることも併せて紹介しました。

＜今後の方向性＞

継続的に「郷土の偉人顕彰作業」を行い、全国に“学問の府・壬生”を発信するため2020年までに「全国藩校サミット・壬生大会」開催を目指します。

＜評価委員の意見＞

- ・全国藩校サミットが壬生町で開催できるように検討していただきたい。
- ・全国藩校サミットを壬生町で開催することとなった場合には、町内に宿泊地を確保するように努めていただきたい。

3. 自ら学びたくましく生きる力を育む学校教育を推進する

(1)小・中学校教育の充実

教職員がお互いに高め合うための研修の場の設定、多様な教育活動を可能にするための人員の配置、就学指導を含めた相談体制の充実、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の整備を図ります。

①教育内容の充実

●主要事業

◇小・中学校情報教育推進事業 (35,456,883円)

＜事業概要及び実施状況＞

情報教育に対応した学校教育を実現するための情報通信ネットワークを整備し、効率的・効果的に利用できる環境整備を図るためパソコン等の更新などを実施しています。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
更新整備台数	更新台数	台	148	0
全校の保有台数	保有台数	台	775	773

<評価と課題>

年次計画により2～3校ずつ更新を行っていますが、平成27年度は更新がありませんでした。情報機器の更新には多額の費用がかかるため7年間で更新していますが、機器の性能の低下が著しくなるため、5～6年で更新できるよう財政面との協議が必要になります。

<今後の方向性>

情報社会に対応した教育環境を整備するため、今後はタブレット機器についても導入していきます。また、Wi-Fi環境を体育館等にも整備し、体育の授業などにおける情報機器の活用や災害時の通信環境を整えます。また、ネットいじめやネットトラブルに巻き込まれないようみぶっ子スマホケータイ宣言によりスマホの所持やLINE等のSNSの使用について注意喚起していきます。

◇小・中学校学力向上支援事業(74,262,567円)

<事業概要及び実施状況>

壬生町立小・中学校に学校教育支援員や教員助手、フルタイム・ティーチャーを配置し、少人数指導やT・T(チーム・ティーチング)による、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や基礎学力の向上を図り、多様化する学習内容等への対応を充実させるとともに、児童生徒に確かな学力を身につけさせ、学力向上や学校生活支援等の指導を図っています。

【用語解説】

○学校教育支援員

学力向上支援員が、T・Tによる学力向上支援及び特別支援学級の児童生徒の学習支援や生活支援を行います。また、学校生活支援員が、発達障がいや身体的障がい等のために学校生活全般において常時支援が必要な児童生徒に対して個別の生活支援を行います。

○教員助手

小学校の外国語活動の授業、中学校の数学・英語等の教科支援の授業及び、外国人等日本語指導が必要な児童生徒の支援を行います。

○フルタイム・ティーチャー

複式学級において、複数教員による授業を行うことにより、通常一人の教師が2学年の授業を受け持つデメリットを解消し、学力向上を支援します。学年担任として正規の教員とほぼ同様の勤務態勢を執っています。

○T・T(チーム・ティーチング)授業

学級数を超えた人数で行う授業。1学級を2名の教員で指導したり、2学級を3グループに分け、3名の教員がそれぞれ指導したりしています。

○複式学級

小学校において、児童数が2つの学年で16人以下の場合(1年生を含む場合は8人以下)、中学校においては、生徒数が2つの学年で8人以下の場合、2つの学年で1学級となります。

○外国語活動

小学校学習指導要領の改訂により、平成23年度から小学校5、6年生に義務化された、「外国語活動」や国際理解に関する学習において、外国語を用いて、互いの思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験できるような活動をとおして、コミュニケーション能力の素地を養います。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
学校教育支援員等の人数		人	35	40

<評価と課題>

本事業は、学力向上支援員を配置することで、個々に応じた適切な支援を行い、学力に繋がる自信を身に付けさせることで、つまづきを解消して落ち着いて授業に取り組む姿勢を作っています。

学力向上支援員の向上につながるように、授業研究会等の実技研修会を取り入れ指導力の向上を図り、より良い指導に繋げて多様化する要望に対応していただけるように進めていく必要があります。

<今後の方向性>

学力向上支援員等の配置による効果については、一様に数値化できるものではないため、学校の先生の声や児童生徒の状況により、支援の効果を計っていきます。

<評価委員の意見>

- ・学力向上支援員も重要であるが、学力向上には、正規職員の増員が必要であると思います。県への働きかけを望みます。

②特別支援教育の充実

●主要事業

◇教育支援事業（88,808円）

<事業概要及び実施状況>

障がいがあるため、小・中学校の通常の学級では十分な教育効果を期待することが難しい児童・生徒に対して、どのように対応するか様々な情報を提供しながら保護者とともに考えます。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
教育支援委員会で審議した児童・生徒 ()内は入級・入学者数	知的障がい特別支援学級入級適	人	44 (29)	50 (33)
	自閉症・情緒障がい特別支援学級入級適	人	23 (13)	20 (12)
	要観察	人	1	5
	合計	人	68 (42)	75 (45)

<評価と課題>

専門家（臨床心理士や医師）を交えた教育支援委員会で審議をし、児童生徒にとって適切と思われる学級への入級への指導を行いました。しかし、保護者との合意形成が図られず、指導どおりの特別支援学級に入級しない児童・生徒が毎年約40%いることから、保護者等の特別支援教育への理解を得られるよう情報を提供していく必要があります。

<今後の方向性>

保育園や幼稚園の訪問など、就学前機関との連携を深め子どもの状況を早めに把握し、適正な就学が図れるよう努めていきます。また、特別支援学級について保護者の理解を得られるよう啓発していきます。

<評価委員の意見>

・子どもにとって、どうすることが一番良い事かを両親に伝えるようにしていただきたい。

③教育環境の整備・充実

●主要事業

◇小・中学校施設修繕及び改修事業(69,779,566円)

<事業概要及び実施状況>

安全で快適な学習環境の整備を図るため、学校施設の修繕・改修工事を行います。また、学校施設は災害時において地域住民等の避難場所の役割も果たすことから、防災機能向上のため「地震防災対策特別措置法」に基づき学校建物の耐震補強工事を実施し、平成26年度で全ての学校で耐震補強工事が終了しました。平成27年度は雨漏りや給水管、自動火災報知設備の改修等、主に老朽化に伴う改修工事や修繕を実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
修繕及び改修工事	実施した件数	件	62	82

<評価と課題>

平成27年度は修繕・改修工事を小学校54件、中学校28件実施しました。主なものとして、南犬飼中学校柔剣道場の屋根の改修工事、壬生小学校の総合防災盤の改修工事などを行いました。

当町の学校施設は、建築から30年以上が経過し、老朽化が進んでいるので継続的な修繕・改修が必要となっており、それにかかる費用も増大しています。

<今後の方向性>

耐震化率は100%になりましたが、今後は非構造部材の耐震化を行い、児童・生徒の安全安心で快適な学習環境の確保、緊急時の避難場所の確保を行っていきます。また、老朽化した校舎の修繕・改修工事を計画的に行っていきます。

◇スクールランチサポート事業 (16,434,000円)

<事業概要及び実施状況>

平成23年度から、保護者の経済的負担軽減を図るため、児童・生徒(要保護・準要保護並びに就学奨励費補助受給者を除く)に対し、学校給食費(小学校4,500円/月・中学校5,200円/月)の一部、月額500円(年額5,500円)を助成しています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
助成対象児童・生徒数		人	3,043	2,988

<評価と課題>

保護者の経済的負担の軽減が図られています。

スクールランチサポート事業について、給食費の上乗せ分ではないので、補助事業としての500円の効果がわかりづらいので、制度の周知を図っています。

<今後の方向性>

今後も、保護者の経済的負担の軽減を図るため、事業を実施していきます。また、引き続きホームページ等で、広く町民に周知していきます。

◇学校給食委託事業 (60,351,480円)

<事業概要及び実施状況>

学校給食業務委託については、平成20年度に壬生中学校、平成22年度には南犬飼中学校、平成24年度からは壬生小学校を民間業者委託へ移行しました。平成26年度からは、藤井小学校・稲葉小学校・羽生田小学校3校合わせて民間業務委託へ移行しました。

各小学校において、1年生の保護者を対象にした食育に関する講話と、給食試食会を実施しています。また、学校によっては、招待給食として、PTA・高齢者・農業関係者を招いて給食試食会を実施しております。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値(累計)	
			平成26年度	平成27年度
学校給食業務委託校		校	6	6

<評価と課題>

学校給食業務については、平成24年度から長期継続契約による業務委託をすることができ、事務経費の節減ができました。また、調理員の急病等の突発的な事象にも迅速な対応がなされ、安全で安心な学校給食を効果的・効率的に提供することができました。

給食施設の老朽化にともない、調理用備品についても購入してから古い物は30年を経過しており、器具が使用できなくなった場合の備品の購入について、検討することが必要となってきます。

＜今後の方向性＞

今後も計画的に民間業者委託への移行を図りながら、3年の長期継続契約が終了する藤井小学校・稲葉小学校・羽生田小学校の3校について、共同調理場で給食を作り配送で給食を提供する親子方式の運営を取り入れ、安全で安心な給食の充実に努めていきます。

器具等の更新についても、計画的な備品の入替を計って行きます。

◇学校生活問題対策事業（311,400円）

＜事業概要及び実施状況＞

学校生活における児童・生徒の意欲や満足感、及び学級集団の状態を計るためハイパーQ-U(心理)テストを小学校5年生と中学校1年生で実施します。また、食物アレルギー等の問題を抱える児童・生徒への教師の対応力向上のため各種講習会を実施します。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
ハイパーQ-U実施人数	実施人数	人	716	756
各種講習会実施回数	実施回数	回	1	1
講習会参加人数	参加した先生の数	人	30	30

＜評価と課題＞

ハイパーQ-Uテストの結果により支援を必要としている児童生徒を把握でき個人指導や保護者の面談に役立てることができました。また、結果を次学年以降や中学校に申し送ることにより継続的な指導や学級編成に役立てます。

Q-Uテストの分析と活用に関する講習会を行うことにより、テスト結果を有効活用できるよう努めていきます。

＜今後の方向性＞

ハイパーQ-Uテストは、児童・生徒の学校生活の満足度を測定するのに大変役立つので実施学年を増やせるよう要望していきます。

また、食物アレルギーやQ-Uテストの効果的な活用などの講習会を行い教師のスキルアップにつなげていきたいと思えます。

＜評価委員の意見＞

- ・Q-Uテストは、子どもの自己肯定感など子どもの状態をみるうえで非常に有益ですので、全学年で実施できるように予算の確保を望みます。
- ・食物アレルギー対策としてのエピペンの使用について、使用をためらうことがないように実のある講習会の実施を望みます。
- ・給食に関しては、安全で安心な食材の使用が重要であるが、地産地消の推進を図り、より多くの壬生町産の食材の使用を望みます。
- ・教育環境の整備に尽力していただいているが、デング熱等の流行もあるので、蚊の対策にも注意を図っていただきたい。

④相談体制の充実

●主要事業

◇教育相談員配置事業(8,993,504円)

<事業概要及び実施状況>

不登校などの問題を抱えている児童・生徒の保護者や学校などからの教育相談・適応相談に対応するため、教育相談員4名を配置し必要な助言や指導を行っています。また、適応指導教室ひばりは不登校児童・生徒の貴重な学力保証の場にもなっています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
相談件数	電話・来所件数	件	646	1,101
復帰者及び高校進学者	復帰者及び高校進学者	人	7	5

<評価と課題>

不登校児童生徒の保護者や本人と面談を行い、学校復帰、高校等への進学の実支援を行っています。適応指導教室「ひばり」では各教科の個別学習やグループ学習、調理実習などの体験学習、各種スポーツなど学校復帰に向け一人ひとりの実態にあった指導を行っています。

<今後の方向性>

不登校児童生徒は、自信を失っていることが多いことから保護者に対し子供に自信を取り戻させる方法などをアドバイスしていき、早期の学校復帰を促していきます。

<評価委員の意見>

- ・人員増を望みます。
- ・特に重要な仕事をされている方たちですので、非常勤職員ではなく、常勤職員を確保するための検討を望みます。
- ・不登校児童生徒の対策は、卒業したあとも必要となりますので、地域でのフォローアップのためにも、こども未来課等との緊密な連携を望みます。

⑤幅広い学びの充実

●主要事業

◇マイ・チャレンジ推進事業(823,963円)

<事業概要及び実施状況>

地域における人との関わりを主とした社会活動を通じて、共に生きる心や感謝の心を育むため、仕事の大切さを教えるため、中学校2年生を対象に実施しています。また、社会体験活動を通して地域を愛し、地域から愛される人間を育成します。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
社会体験事業所数	事業所数	社	112	128

<評価と課題>

直接的な社会体験を通じて、自己の生き方、勤労の尊さを感じとらせることができました。また、様々な職業に対する考え方や学習の必要性を理解するなど、生徒の意識が高められました。事業所の選定については、できるだけ生徒の希望を反映できるようにしています。

<今後の方向性>

職場体験学習は、生徒の成長段階に応じた勤労観や職業観の育成に大いに役立つので今後も実施していきます。

◇宿泊体験活動推進事業(1,594,080円)

<事業概要及び実施状況>

小学校5年生を対象に、海にかかわる自然にふれながら、児童が集団で宿泊し、自然体験をはじめ共同生活体験、社会体験など、学校外の生きた教材や生活場面での直接体験を通じて、生きる力を育めるよう、宿泊体験活動推進事業を実施しております。学校教育の充実を図るため、事業経費のうち、貸切バス借上げ料を町が負担しています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
宿泊体験活動実施校	小規模校においては隔年	校	8	6
宿泊体験活動バス借上げ台数		台	26	22

<評価と課題>

普段海に接することの少ない子どもたちが、とちぎ海浜自然の家に宿泊しながら海の自然や海にかかわる産業・文化などに触れ、自然体験活動が充実し、心の教育が推進されました。

貸切バス料金の新たな運賃・料金制度により、借上げ費用が上がりました。

<今後の方向性>

安定して宿泊体験活動推進事業を実施するため、各学校においてバスの行程を利用しやすいように、貸切バスの往復の借上げ料として、1台の上限を設定して補助金として交付していきます。

<評価委員の意見>

・今後も、引き続き適正な事業の執行を望みます。

4. すべての住民が競い、触れあい、スポーツを楽しむ環境を創る

(1)生涯スポーツの普及促進

スポーツは単に競技を行う人だけに関わるものではなく、近年は、スポーツを通じた健康の保持・増進や地域社会の再生など、すべての地域住民への関わりを求められようになってきました。

生涯スポーツとは、その生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツのことで、都市化・少子化などによって外遊びの機会が減少し、体力が低下している乳幼児・児童から、高齢化社会における生きがいを求める高齢者まで、幅広い年代層を対象とし、障がい者スポーツもこの範疇に含まれています。この生涯スポーツの推進を図るため、講習会や研修の開催・参加により、スポーツ推進委員などの人材の育成・確保を維持するとともに、総合型地域スポーツクラブの運営支援を継続して行います。

また、スポーツ施設の維持管理に努めるとともに、新体育館の整備に向けた検討を推進します。

①人材・団体の育成

●主要事業

◇スポーツ振興助成事業（2,094,000円）

<事業概要及び実施状況>

スポーツ活動を振興し、町民の健康の増進などを図るとともに、指導体制の確立に活躍している壬生町体育協会（各専門部及び壬生町スポーツ少年団）に補助金を交付し、各種競技スポーツ団体の大会開催や教室等の活動支援を行っています。

また、スポーツ全国大会等出場者（個人・団体）に激励金を交付し、その成果を称えるとともに、総合運動場体育館内に国体出場者名簿一覧の掲示や、体育協会において全国大会等の出場者を表彰するなど、広く町民にスポーツの意識の高揚を図り、本町のスポーツの振興に寄与することができました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
スポーツ団体の大会開催数	体協専門部主催の大会	回	43	43
全国大会等出場者数	激励金交付者数	人・団体	97	102
スポーツ少年団指導者登録数	スポーツリーダー登録数	人	41	43

<評価と課題・改善>

体育協会の活動を支援し、町民スポーツ意識の高揚を図るとともに、競技スポーツの質の向上、スポーツ参加の促進、指導体制の確立を図るため補助金を交付することにより、各種競技団体が活動し多くのスポーツ愛好者が参加されております。

また、激励金を交付し支援を行うことにより、全国大会等（関東大会・全国大会・世界大会）に出場し、8位以上の成績を収めた団体や個人は16人（団体）となっております。

スポーツ少年団指導者につきましては、(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づき、地域住民のスポーツの生活化・定住化の促進を目的として、スポーツ少年団の育成・指導にあたる「スポーツリーダー」を養成するため、実技を含む11科目で延べ14時間の集合講習と、21時間の自宅学習を経て、レポートの提出と検定試験に合格する要件を満たした方が、資格を得ることが出来る仕組みとなっており、スポーツ少年団の健全な育成に寄与しております。

<今後の方向性>

栃木県の国民体育大会が2022年（平成34年）に開催されますので、体育協会の機能を強化し、競技スポーツの推進を図りたいと考えています。

また、全国大会等の出場者には引き続き激励金の交付等支援を行い、競技レベルの向上を図るとともに、本町のスポーツ振興を推進します。

スポーツ少年団の健全な育成を図るため、指導者の育成を推進します。

◇栃木県郡市町対抗駅伝競走大会出場事業（971,581円）

<事業概要及び実施状況>

壬生町としての単独チームは平成22年度から参加しています。

本大会に向け、26名の強化選手が監督を中心に強化練習会を町の陸上競技場などで行ないました。また、レース感覚を養うために他市町のマラソン大会にも出場し選手の強化を図っています。中学生の強化選手については、中学校から推薦された選手を指定しています。

また、平成25年度から町内の各小学校から選手を募集し栃木県小学生駅伝競走大会にも出場しています。平成27年度は、2チーム出場し、計25名が参加しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
郡市町対抗駅伝選手数	登録人数	人	29	26
郡市町対抗駅伝競走大会順位	チーム数・順位	位	28チーム中 28位	31チーム中 31位
小学生駅伝選手数	登録人数	人	44	25
県小学生駅伝競走大会順位	チーム数・順位	位	42チーム中 10位 24位 31位	44チーム中 12位 33位

<評価と課題・改善>

平成27年度第57回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会は31チームが参加し31位という結果となりました。

壬生町単独チームのため選手の層を厚くすることは簡単にはいきませんが、中学校や体育協会だけではなく企業等とも連携を図り、選手強化に努めていく必要があります。

また、町の広報紙やホームページ等で駅伝大会や練習会をPRし、町全体としての盛り上がりを図るとともに、選手の発掘をする必要があります。

<今後の方向性>

栃木県郡市町対抗駅伝競走大会は、一つでも上の順位を目指すため駅伝経験者や、将来のアスリート候補となる選手の発掘をすすめ、練習会を実施することにより個々のレベルアップを図ります。

また、栃木県小学生駅伝競走大会は、郡市町駅伝競走大会に繋がるような選手の育成にも効果が期待されますので、各小学校と更に連携を密にし、小学生を対象とした練習会を開催することにより選手の強化・育成を図ります。

<評価委員の意見>

- ・ 走ることが好きでないお子さんもいるので、底辺を引き上げる意味から、走ることを楽しむことを学ぶためにも、学校教育課との連携を望みます。
- ・ 走ることが一番のアピールになるが、沿道の旗の数がアピールになるそうです。壬生町は、キャラクター等もあるので、小学生とキャラクターが沿道で応援すれば、駅伝の楽しさが伝わると思いますので、予算確保を望みます。

②地域型スポーツの推進

●主要事業

◇総合型地域スポーツクラブ事業(2,000,000円)

<事業概要及び実施状況>

平成23年2月に設立し5年目を迎えたゆうがおスポーツクラブの基本理念である「みんなで、汗を、ふれあいを！」に基づき、スポーツを体験・修得できる、各種教室及びイベント等を開催しています。

平成27年度は、新たに（公財）健康・体力づくり事業財団からの委託事業で「貯筋運動教室」を実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
会員数	登録者数	人	595	553
教室・イベント数	教室・イベント数	個	27	29
教室・イベント等延べ参加者	参加者数	人	10,254	9,515

<評価と課題・改善>

スポーツには体力の向上や生活習慣病の予防など個人に関すること以外に、青少年の健全育成や地域住民の交流などを深める効果があるとされています。

ゆうがおスポーツクラブでは、子どもから高齢者までが参加できる各種教室及びイベント等を開催しており、世代を超えた交流が図られています。

また、各種教室に参加することにより日常的に身体を動かす機会が増え、子どもの体力向上や高齢者の健康保持増進に大きな役割を果たしています。

ゆうがおスポーツクラブの運営については、会員からの会費(年会費等)が主な財源となるため、会員の確保が最大の課題となっています。

<今後の方向性>

ゆうがおスポーツクラブを魅力あるクラブとするためにも、各種目に応じた質の高い指導者による適切な指導や、学校運動部と連携・協力し、子どもたちに多様なスポーツ環境を提供するなど、教室事業や各種イベントの充実化を図ります。

また、会員の確保対策として、クラブ会費等の見直しや広報活動の強化、協賛企業への働きかけの強化を図ります。

<評価委員の意見>

- ・今後も、引き続き適正な事業の執行を望みます。

③スポーツ施設の充実

●主要事業

◇ふれあいプール維持管理事業 (40,266,664円)

<事業概要及び実施状況>

プール利用者に人気のスライダーの安全性を高めるためにスライダーの乗り入れ口の修繕を行いました。また、プールサイドのゴムチップ舗装の修繕を行い、利用者が快適に利用できるようになりました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
入場者数	プール入場者数	人	49,676	53,563

<評価と課題>

平成27年度においても、前年同様に7月の第3土曜日から営業し、小中学校の夏休みに合わせました。入場者数は気候に左右されますが、26年度に比べ台風や低温の影響は少なく、入場者数は平成26年度に比べ増加しました。

築後約30年を経過しているため施設の老朽化が目立ってきており、安全で衛生的な施設の維持管理が求められています。

<今後の方向性>

今後も計画的・効果的な改修を行い、安全で快適な施設の維持管理に努め、利用者の安全性の向上を図ります。

<評価委員の意見>

- ・ Deng 熱対策として、施設周辺のドブさらいや、水たまりの除去など適正な管理を望みます。
- ・ 施設周辺のハチ対策を望みます。
- ・ 子どもたちが楽しみにしているので、事故のないような監視体制の確立を望みます。

(2)幅広い町民スポーツの振興

住民ニーズに対応するスポーツ・レクリエーションイベントや各種大会を開催し、住民のスポーツ参加機会の拡大に努めます。

①スポーツ参加機会の拡大

●主要事業

◇ゆうがおマラソン開催事業

(6,384,335円【内スポーツ振興くじ助成金5,106,000円】)

<事業概要及び実施状況>

平成27年度の「第4回壬生町ゆうがおマラソン大会」は、ゲストラナーに「高橋尚子」さんをお迎えし、10kmコースを含めた16種目で実施しました。

参加者は県外からの申込者340名を含め2,595名となり申込者数を更新しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
大会申込み者数	エントリー数(幼児を除く)	人	2,545	2,595

<評価と課題>

参加者の感想では、ゲストラナーの好印象が大きく、また、コースの設定も好感を持たれております。

壬生中・南犬飼中学生等の給水所におけるボランティア活動や、壬生高校生ボランティアによるカミナリ汁の配布、白鷗大学生ボランティアによるコースの運営管理など、ランナーから大変好評を得ております。また、町内のボランティア団体が協力して模擬店を出店したり、壬生町の特産物のいちごを活用したジュースやみぶ菜料理の提供、また、昨年に引き続きおもちゃ博物館の入館料割引を実施するなど、町の観光資源をPRすることにより、町政振興に寄与することができました。

<今後の方向性>

スポーツを通じた人と人の交流及び地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成することで地域社会の再生に貢献します。

また、マラソン大会を通じて壬生町の地域資源を積極的にPRします。

<評価委員の意見>

- ・ゆうがおマラソン大会は、オープン参加であることから、町内在住の小学生は、入賞すること自体が難しい状況となっている。そのため、町内小学生の育成や励みにもつながると思うので、町内在住小学生だけを対象に、別途表彰することを望みます。
- ・障がい者枠の創設を望みます。

5. 青少年が健やかに育つ社会を実現する

(1)家庭教育の推進

子育ては、親が親としての責務を十分に自覚し、優しさ、暖かさ、厳しさをもって子育てを担っていく必要があります。

幼少期や思春期などの子どもの発達段階についての理解や親としての関わり方を学ぶため、様々な機会を活用した講座を開催し、家庭教育力を充実させていきます。

①家庭教育の充実

●主要事業

◇家庭教育推進事業(710,650円)

<事業概要及び実施状況>

家庭の教育力の低下や子育ての密室化等が指摘されている今日、保護者が子育てに必要な素養を学んだり、保護者どうしゆるやかにつながりあったりすることを目的とした「子育て・親育ち講座」を開催しました。実施の方向性は、庁内関係部課局職員や地域住民等で構成する家庭教育支援実行委員会において協議し、講座の企画運営は、家庭教育支援チームが担いました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
小中学校子育て・親育ち講座の参加率	対象保護者数に対する参加した保護者の割合	%	72.2	72.7
子育て・親育ち講座の開催数		回	48	45

<評価と課題>

仕事等を抱えて多忙な生活を送っている保護者に対しても学習機会が提供できるよう、保育園・幼稚園、小・中学校、各地域団体等と協働し、様々な機会を利用して全講座を開催しました。保護者のニーズに沿った講座の企画立案を特に重視しました。

また、平成27年度は、こども未来課との協働による講座を11講座開催し、315名の参加がありました。

講座は主に母親が参加することが多く、父親向けの講座として、「子育てに励む父親を対象とした講座」を実施しました。開催数は、1講座で、9名の参加がありました。

中学生向けの講座として、「未来の親となる中学生を対象とした講座」は2講座で、44名の中学生の参加がありました。

今後も、母親、父親、中学生および青少年向けと多様な講座の開催を推進します。

<今後の方向性>

講話型とワークショップ型を併用しながら、保護者がその教育力を高めていけるような講座になるように、家庭教育支援チーム員とともに講座の内容を検討して参ります。

＜評価委員の意見＞

- ・地域の高齢者を活用できるような講座の開催の検討を願いたい。
- ・ひとり親家庭の数を把握するなど、現状を承知したうえでの講座等の実施を望みますので、こども未来課など関係部署との連携を密にしてください。

(2)青少年活動の推進

青少年が健やかに育っていく過程では、社会性は人々との関わりの中から、意欲は物事に能動的・積極的に取り組む中から培われており、それらを育むためには、様々な体験活動を提供することが必要です。

そのため、各種団体の活動を支援し、青少年の体験学習や交流事業を推進していきます。

①青少年活動の充実

●主要事業

◇青少年活動推進事業(605,168円)

＜事業概要及び実施状況＞

青少年が薬物や有害サイトの危険から自身を守り、犯罪に手を染めない様に啓発する標語を町内の中学2年生から募集し、いろいろな場面での啓発に活用しました。

少年犯罪等を未然に防止するため、PTAや町内関係団体で構成する青少年健全育成実施委員会が定期的な街頭指導パトロール、有害図書自販機撤去運動等を行っています。

また、社会の構成員としての責任を自覚してもらうために成人式を開催しました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
成人式の出席者	成人式の出席者数	人	282	259
成人式の出席率	成人式出席者数/成人者数	%	77.5	69.0

＜評価と課題＞

成人式は、新成人が企画・運営にあたっており、中学生ボランティアが受付等に協力して式典を開催しております。

また、町内の中学2年生より青少年健全育成標語を募集し、優秀な作品を選出して、バンドフェスタで表彰式を行い、各種イベント等の会場で啓発活動を行いました。

＜今後の方向性＞

今後も、成人式は、新成人の自主的な企画・運営で行っていきます。

また、青少年を健全に育成するため、環境浄化や啓発活動を推進して参ります。

◇みぶホリデーアクションプラン(486,628円)

＜事業概要及び実施状況＞

子どもたちに豊かな体験活動を提供する、児童文化教室(宿泊研修、ドッジボール大会、カルタ取り大会)を開催しました。

子ども遊び学び塾は、ボランティアの協力を得て、5つの小学校で土曜日の体育館で開催し、延べ153名の参加がありました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
児童文化教室参加者数	延べ参加者数	人	298	289

<評価と課題>

児童文化教室のうち、宿泊研修では、野外調理をしたり、キャンプファイアをしたりして、共同生活を通しての普段、体験することのできない貴重な機会を提供することができました。

また、ドッジボール大会では、単位育成会の枠をこえた広域チームの編成で地域の枠をこえた交流の場を提供することができました。

カルタ取り大会では、中学生ボランティアや高校生ボランティア等との交流をすることができ、幅広い年齢層との交流の場を提供することができました。

今後も児童文化教室は、子どもたちへの体験活動の場を提供することが重要であり、また、地域の枠をこえた子どもたちの交流の場として効果的であることから、今後も継続して実施していきます。

一方、子ども遊び学び塾では、ボランティアスタッフが減少しており、スタッフの確保が課題となっております。

<今後の方向性>

本事業は継続して実施していきますが、今後は、ボランティアに興味のある方をスタッフに勧誘し、世代間交流を促進する事業として推進を図ります。

<評価委員の意見>

- ・今後も、引き続き適正な事業の執行を望みます。

6. 共同参画社会の確立を目指し、個人・個性を尊重する

(1)男女共同参画の推進

住民と一体となって総合的に男女共同参画社会の実現に向け、「壬生町男女共同参画プラン」を住民と協働で推進し、性別にとらわれず個人が尊重され、能力が十分に発揮できるまちづくりを目指します。

①推進体制の整備

●主要事業

◇女性活動推進事業(537,392円)

<事業概要及び実施状況>

男女共同参画プランを推進するため、男女共同参画講演会では「村松 真貴子」氏による『話し方、食べ方、笑顔で10歳若返る～めざせ！老若男女共同参画社会～』の講演を行いました。講演のほかに、男女共同参画推進委員による川柳ビデオの上映や女性団体連絡協議会会員による替え歌の斉唱を実施することができました。

講演会の周知のため、近隣市町へのチラシの配布や駅構内へのポスターの掲示等、PRに努めました。

また、女性の登用を推進するために、関係各課に各種審議会等の委員に女性の登用を図るように働きかけを行いました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	県計	壬生町
地方自治法に基づく審議会等委員の女性登用比率	女性委員数÷総委員数×100(H28.4.1現在)	%	27.6	30.7
一般行政職の管理職在職状況	女性管理職員数÷管理職総数×100(H28.4.1現在)	%	6.1	20.9

<評価と課題>

男女共同参画計画の推進や女性リーダー等を育成することで、各種審議会や委員会への参画が推進され、男女がお互いを尊重しつつ共に協力し支えあいながら、家庭生活とその他の活動を両立できるような社会づくりの形成を啓発しました。壬生町における一般行政職の女性の管理職登用率は20.9%で栃木県平均11.2%より高い登用率となっております。

<今後の方向性>

男女が共に家庭や地域、職場など社会の様々な場面で輝けるように個性や特性を尊重し、社会の対等の構成員として政策等に参画できるよう啓発をして参ります。

<評価委員の意見>

・今後も、引き続き適正な事業の執行を望みます。

7. 国際理解を促進し、交流活動を推進する

(1)国際理解の促進

国際社会の一員として、互いの文化や生活習慣を理解し尊重しあえるよう、国際交流協会などによる民間交流事業を支援します。

また、本町に居住する外国人のために、安心して生活ができるよう医療・福祉・生活環境などの情報提供を図ります。

①外国文化への理解の促進

●主要事業

◇外国語指導助手配置事業(10,303,200円)

<事業概要及び実施状況>

平成23年度から民間委託の外国語指導助手(ALT)を3名配置し、ALTを各中学校に週4日、各小学校には週1日派遣し、それぞれの学年に応じた国際理解教育や英語学習の充実を図りました。

小学校では、小学校学習指導要領の改訂により平成23年度から義務化された「外国語活動」や国際理解に関する学習において、英語を用いて、互いの思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験できるような活動をとおして、

コミュニケーション能力の素地を養い、中学校では、英語科の授業において、実践的なコミュニケーション能力の基礎を養う等、外国語教育の促進を図りました。

また、ALTを活用したイングリッシュ・プログラムを年2回実施し、小学校4年生から6年生を対象に希望者を募り、「まる1日英語で過ごそう」事業として、ALTと1日活動しながら、英語によるコミュニケーション能力の素地の向上を図りました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
ALTの児童生徒1人あたりの事業費	総事業費/児童生徒人数	円	3,202	3,228
イングリッシュ・プログラム	参加人数	人	53	59

<評価と課題・改善>

外国人による生きた英語による授業により、児童・生徒の学習の意欲が高まるなど外国の文化などへの興味・関心を深めることができました。

ALTを通して小学校低学年のうちから英語に触れ合うことができコミュニケーション能力向上に繋がり、児童生徒が異文化に触れる経験をとおして、豊かな英語力を身に付けられる異文化体験を積むことができました。

指導力の不十分なALTについては途中でも交代できるようなサポート体制を確認し、優れたALTを確保して、英語教育の充実を目指していきます。

<今後の方向性>

中学校では、話せる英語力・入試に強い英語力を身に付けるため、新たなALTの活用事業として、給食中にALTによる簡単な英語放送を流し、ネイティブな英語に触れる機会を増やします。ネイティブな英語に触れることでリスニング力を向上させることで、英語への興味・関心を高めていきます。

また、イングリッシュ・プログラム事業についても、活動をとおして英語を用いた楽しさを実感できるように工夫していきます。

<評価委員の意見>

- ・質のよいALTが配置できるように業者の選定に工夫を望みます。
- ・海外からの留学生などによる結核の持ち込みが多いので、壬生町の子どもたちを守るため、ALTの健康管理に注意を払うことを望みます。

(2)国際交流活動の推進

若い世代から豊かな国際感覚を身につけるため、中学生海外派遣事業を実施するとともに、町の国際交流推進の中心となる壬生町国際交流協会活動への積極的な支援を実施します。

①交流活動の支援

●主要事業

◇中学生国際交流推進事業(8,620,813円)

<事業概要及び実施状況>

本事業は、平成10年度から実施しており、平成27年度は18回目です。壬生町中学生海外派遣団として8月8日から8月16日の9日間、町内在住の中学校第2学年生徒20名をオーストラリア・シドニーに派遣しました。ホームステイによる家庭での生活や現地中高生との交流、語学学校での研修を行いました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成26年度	平成27年度
参加者1人あたり事業費	総事業費/派遣団員数	円	504,456	481,970

<評価と課題>

ホームステイしながら、公共交通機関を利用して語学学校に通学したり、現地中高生の授業に参加し、日本文化がわかるカルタ・あやとり・だるまさんが転んだ等の遊びを通して交流をすることができました。

また、外国の風土・文化・人々との異文化体験学習から学ぼうとする意欲や実践力、語学力の向上と国際性豊かな感覚を身に付ける事ができました。

中学2年生の代表として体験してきた経験を周りの人々に伝えていければ良い事業となるので、今後は教育委員会ホームページに代表者の報告を掲載していく必要があります。

<今後の方向性>

ホームステイを経験することで、直接外国の文化に触れる貴重な体験ができるので、今後も継続して実施していきます。

<評価委員の意見>

- ・今後も、引き続き適正な事業の執行を望みます。